

第 3 回審議会意見等の分野別整理

(1) 自然・安全安心・生活・環境

要点	意見要旨
豊かな自然環境の活用	○「多摩川」を地域資源と言っている割には行きづらい。多摩川はひとつのテーマである。 ○子どもの頃は身近な遊び場であったが、当時は大人の目があって(ある程度)安全であった。理想を言えば、川を簡易に堰き止めて膝くらいの水位で水遊びができて、体育大の学生のライフセーバーを配置すると産学連携ができる。 ○とても自然に恵まれているが、自然と遊んでいるかというそうではない。安全に遊びを見守れる環境が整っていないと遊べない社会状況になっており環境整備が必要。多摩川も活かされない。自然環境が豊かであってもプレイパークの設備がない。 ○青梅は林業の街であったが、材木としての利用価値がなくなり、担い手もなく山が荒れているのではないかと思う。これだけ自然があるので針葉樹・広葉樹を含めて木を長期間に渡って植え変えていき、人々に優しい山をつくっていったらどうか。そのためには、NPOなど色々な方々で山を手入れしていくことが必要。
災害に対する取組の視点	○災害対策に対してやり過ぎるということは基本的にはない。災害対策には想定というものをとことん詰めていかなければならない。もう一度真摯に被害想定をしてもらいたい。被害想定をするときに、これ以上では手の打ちようがなくなるため想定を下げることもあるが、被害想定は正確にやるべきである。
快適な市民生活に向けて	○買ったものを配達してくれるような店舗があれば、多少の配達賃があっても配達できるシステムがあった方が便利。 ○買い物の配達について、農協では、奥多摩がお年寄りの多い地域なので週ごとにエリアを変えて車で配達をしている。今後は小曽木・成木でも取り組もうと考えているが、こういったことは行政でできることではないため、民間として取り組んでいかなければならない。 ○青梅市にはドッグランがないため、飼い主のマナー、その他多々問題点もあるが、河辺下グラウンドや若草公園等に適切と思われるスペースがあるように思うので検討課題にしてもらいたい。
環境に配慮した取組	○地産地消という観点で間伐材が出た地域でできるだけ処理をして、できるだけ利用できるような工夫がないものか。チップにしたり発酵させたりするなどごみにするのではなく、次の資源にしてもらいたい。

(2) 教育・文化・スポーツ・交流

要点	意見要旨
特色のある 青梅の教育	○教育の内容というのは網羅的に記載されていて基本的な内容に違いがない。青梅の教育を特色あるものにするには、重点化を図っていく必要がある。教育はやらなければいけない内容が多く、費用もかかり、ひとつのことだけをやっていられないということもあるが、青梅ならではの教育をしていかないと、子どもたちは青梅の楽しさや、住んでいることの良さを実感しないままに生活をして他の地区に行ってしまうのではないか。 ○自然や地域の良さがあるから、子どもたちが体験し良いなと実感しているかというそのようになっていない。そばにあるというだけで地域のことを理解し、生活につなげていくようなことがないのではないか。青梅の良さを学ぶような教育プログラムができているのか。多摩川にしても御岳山にしても、ただ遠足で行くだけではなくて、教材化し積極的に子どもたちに関わらせるようなことが必要。また、青梅を紹介するような役割を担える、観光に関われる機会がもてるといい。 ○人材活用のシステムとして、地域運営学校の発想は必要ではないか。既存の学校運営連絡協議会が形式的なものになっていないか。もっと積極的に教育の中身に意見を言えるようなシステムになっているかも見届けていく必要がある。 ○成木地区も含めて、これから小規模化が考えられる地域については、教育の連携だけではなくて建物そのものも含めて小中一貫校の構想をきちんと持っていないと山間部の子どもたちの教育力が弱くなることが懸念される。校舎の老朽化で建替をする際の契機にするといい。 ○国語力向上を図る取組はいいが、ベースアップするだけでなく子どもたちの目標となるような、夢を描けるような内容がないと目指すものがなくなってしまう。外国語教育であるとか、青梅の子どもたちは外国語活動のレベルを少し上げたところに置いて外国人との交流を楽しむような、学習の楽しさを持っていくようにするといい。
様々な面での 交流の促進	○交流都市・交流人口の面で、23区やその区民とどう関わっていくのか、周辺の他の市とどう組むのか、震災の影響からも遠隔の他の地域とどのように連携していくのか。色々な意味で自立しながらどう共助をつくっていくのかということを考える必要がある。

(3) 福祉・子ども・健康・社会保障

要点	意見要旨
やさしい福祉 のまちづくり	○人口の割には老人ホームや病院が多いのだが、そこを利用するには至らない虚弱な方や要支援の方へのサービスがあまりない。また、ちょっとした通いでリクエストしたりする施設がない。買い物することが不自由なお年寄りや病院に通いにくいという課題がある。
	○お年寄りと子どもが一緒になって、子育て支援と高齢者の介護予防としていくような多世代交流を兼ねたような施設があるといい。
	○山の手入れにあたっては、増えているお年寄りや、老人ホームの方々を含めて、絶対的な要援護者にさせないという観点で、その人が働ける範囲で取り組んでもらう。老人ホームの中にいるだけではなくて、もっと積極的に街に出てきて多世代交流も図れるといい。
	○福祉の観点から、老後を安心して快適に過ごしたい方は多いと思うが、行政が民間委託により、自宅にいて生活に必要なものが購入できるシステムや巡回医療サービスも必要。福祉・医療サービスは重要な課題。
子育て・子育て 支援	○子どもが3人産み育てられる街として、病児保育の充実が必要。長時間保育がいいのかわからないが、アットホーム的な組織・場所があるといい。
	○多世代交流を子どもたちと一緒にしたい。小学校から18歳までが児童であるが子どもたちに関する公的施設がないので、児童館のようなもので多世代交流ができて大人たちが温かい目で見守りながら子どもたちを育めるところが必要。多世代交流はとても大切。

(4) 産業・都市基盤・観光・雇用

要点	意見要旨
地域産業の活性化	○人口を見ると高齢化している。近年、昼夜間人口の格差が広がっている。商店や工場の従業員数が減少している。ということから青梅の生産年齢人口にある方は、市外で働き、増化する高齢者が昼間人口を占めているのであろうが昼間人口は減っている。このように人口は600人しか減らないが内容を考えると青梅には就業機会がなく時間をかけて通勤するとなると子どもを3人持てない。こういうことについての政策を出して行く必要がある。
	○大型店舗の出店をある程度抑制してもらいたい。地元の商店が税金を納められるように行政の協力も得てやっていきたい。
	○青梅は農業・林業に従事する人が減り、さらにサラリーマンになってしまい、昼間人口に変化をおよぼしているのではないか。
	○農業関連の長年の懸案は、高齢化・担い手不足・遊休農地の拡大である。農地は、毎年100ha程減っていった。
	○野菜の苗を購入される方がとても増えており、家庭菜園をしている方が増えていると思われる。青梅に500人ほどの農家があり、自家消費の農家がほとんどで、出荷している農家は180人しかいない。直売所の傾向として吉野では小口の出荷者が多いので出荷量はそれほど変わらないが、新町では広い農地を持っている農家が多く、広い農地で農家を続けられなくなった方がでているため、出荷量が減っている。
	○青梅(吉野梅郷)は梅と柚子の産地であるのだが、PPV(ウメ輪紋ウイルス)の影響で、市内の樹木を5,000本切り、来年も5,000本程切る。市内から観光資源である梅がなくなってしまう、観光客が減り、観光関係者や商店街などは非常に厳しい状況になる。この10年間で再生計画を進めるにしても、青梅市としていかに早く再生するか取組が重要。
都市基盤整備への期待	○青梅駅周辺の街並について、電線類の地中化を実現してほしい。目玉となるような店・商品・建物等もほしい。市外から人が訪れ、商店街で買い物し、リピーターが増えるような魅力あるまちづくりをしてほしい。
	○ケミコン跡地等を活用して、市外からも人を呼び、小さな子供から高齢者の方まで利用できる価値のあるテーマパークのような建物がほしい。
	○採石場跡地については、以前は尾根堀りだったため、山そのものはなくなるが平らな土地が残って活用する方法があったが、今は沢堀りということで穴が残され水がたまり危険な土地になってしまっている。日向和田の採石場跡地は平らな土地をもっと増やして、施設をつくったり交流の場として活かせるのではないか。

	○ 他市の例で、駅ビルを使って中高生が図書室で本を読み、その脇でNPOの方が活動していたり、喫茶室があったりしてそういったスペースがいいなと思う。
観光活性化の取組	○ 青梅には回遊ルートにすると楽しいところがたくさんあるが、もう一度見直し、回遊ルートと回遊ルートの始まりと終わりとがつながりが持てるようになるといい。また、それぞれのルートに色々な花や木を活かしてお金をかけずに名所を作ってもらいたい。 ○ 観光地として、岩蔵温泉は川がありホテルが鑑賞できると良い温泉だと思うが、目の前の通りはダンプが通り、風光明媚で景色を楽しんで温泉に入って英気を養うとはならない。重要な観光施設として車の規制ができるといい。

(5) 協働・コミュニティ・行政運営

要点	意見要旨
地域コミュニティの重要性	○ 昔からある助け合い・コミュニティが青梅には残っているので、みんながそういった気持ちになれるエリアをつくっておきたい。
行政が持つべき考え方の視点	○ 青梅は、量やサイズ、質的な面でも程良いと思うが、このまま守りの姿勢で改善していく形では世の中が大きく変わっていくので10年間を乗り切れない可能性がある。「良い点を守り育み、時代に沿うように変える青梅」と所信表明にもあるように攻めの方を外にどのように発信していくか。 ○ 青梅が既存の資産として持っているものを活かしつつ施策を進めていくということは、新しいものをつくるより、コストを減らせるはずである。いかに活用して役にたてるかが重点的にやることだと思う。 ○ 子どもたちがこういうことができたらいいなと思ったことに対して、それを実現できるように行政が応援できる体制と、青梅の資産を使えばあまりお金をかけずに実施できるはずである。お金がない分、知恵を出さないといけない。 ○ 様々な仕組みをビジネスモデル化して、人が変わっても続けていけるようなシステムにしていくような考え方がいいのではないか。その構築のためには行政の協力が必要である。 ○ 高齢者向けの施設が非常に多い街であるので、高齢者に向けてのサービスが進んでいる部分が多いと思う。そういった現場での知識を行政がまとめて外に売り出して行くような思考でつくってもらいたい。

(6) 共通

要点	意見要旨
共通事項	○人口予測では減っていくかもしれないが、青梅市は恵まれていると感じる。毎年 1,000 人～2,000 人と減っている都市もある。青梅には就業の場所もあるし、通勤できるということで、全国から見ると恵まれている。
	○青梅市の人口が平成 17 年調査と比較して 3,000 人程の減少ということは、年間だと 600 人ということになる。少子高齢化社会にあるが、マイナスをいかに少なくするかが長期計画の目的なのではないか。
	○市の人口を増やすには、二代目、三代目とこの地を離れずに住み家族をふやしていくことや、若い世代の方々にこの地に移り住んでもらうこと。そのためには、生活しやすく、子育てしやすい環境をつくること。
	○子どもたちの意見にあらわれているのは、自分の住んでいる街のことは良い街だと言ってもらいたい、逆から言えば自分の街を自慢したいという気持ちがある。
	○企画力というものは重要であるが、目的意識や到達点が盛り込まれていないものではだめである。そういった考え方を取り込んでいって欲しい。